

平成28年11月20日 通水式

一級河川 梯川改修事業 梯川分水路

～ 小松地区のまちづくり・川づくり・道づくり～



- 梯川流域は、山間部と海岸砂丘に囲まれた低平地が広がっており、ひとたび氾濫が発生すると浸水が長期化しやすい地形となっています。
- 梯川は小松市街地を貫流する流路延長42km、流域面積 271km² の一級河川で、川幅が狭く、雨が降ると、水位上昇が早い特徴があります。
- 浸水想定区域内には、人口が集中する小松市街地が形成されており、国道8号などの基幹交通が整備されています。

梯川分水路 繰り返された洪水被害

水害の歴史

- 昭和8年洪水、昭和34年洪水で本川堤防が決壊。昭和43年8月洪水を契機として、昭和46年に直轄河川に編入しました。
- 現在まで、引堤や河道掘削等の河川整備を進めているものの、整備途上のため、平成10年、平成16年、平成18年、平成25年と堤防高に迫る洪水が頻発し、水害リスクの高い河川となっています。特に、平成25年洪水では、小松市、能美市に避難勧告（6,210世帯）、避難指示（4,624世帯）が発令されています。

発生年月日	発生要因	小松大橋地点流量	被災状況
昭和8年7月25日	台風	1,690m ³ /s (推定)	本川1箇所、支川2箇所で堤防の決壊 浸水家屋 1,549戸、橋梁流出 32橋
昭和9年7月11日	梅雨前線	1,100m ³ /s	支川等で堤防の決壊 浸水家屋 188戸、橋梁流出 26橋
昭和34年8月14日	台風7号	1,390m ³ /s	本川1箇所、支川4箇所で堤防の決壊 浸水家屋 390戸、橋梁流出 9橋
昭和43年8月28日	秋雨前線	970m ³ /s	支川3箇所で堤防の決壊 浸水家屋 100戸以上
平成10年9月22日	台風7号	1,110m ³ /s	浸水面積 19.9ha(内水) 河岸の一部崩壊等 3箇所
平成16年10月20日	台風23号	720m ³ /s	浸水面積 238.1ha(内水) 護岸の一部崩壊等 4箇所 小松市 避難勧告発令(2,273世帯)
平成18年7月17日	梅雨前線	720m ³ /s	浸水面積 108ha(内水) 護岸の一部崩壊等 15箇所 小松市 避難準備情報2回発令(2,726世帯)
平成25年7月29日	梅雨前線	790m ³ /s	埴田水位観測所において、 観測史上最高水位5.23mを記録 浸水面積 177ha(内水) 堤防斜面の崩れ等 4箇所 小松市、能美市 避難勧告発令(6,210世帯) 避難指示発令(4,624世帯)



梯川分水路 小松天満宮と分水路改修

小松天満宮の由緒

- 小松天満宮は、加賀藩主三代藩主前田利常が小松城に隠居後、祖先神として崇拝する菅原道真を祭る北野天満宮を模して明暦3年（1657）に創建しました。江戸時代初期の優れた建築様式を今に伝えるところから、昭和36年6月に国の重要文化財に指定されています。
- 小松天満宮は、卯辰山、金沢城本丸、小松城によって、一本の線によって結ばれる位置にあり、「小松城の鬼門にあたる艮（うしとら）の方向、すなわち東北にあたる梯川のほとりを選び、小松城の守りを堅固にすることを願ったもの」といわれています。



小松天満宮社殿／本殿、石の間、幣殿及び拝殿
(国指定重要文化財／昭和36年6月指定)

小松天満宮神門
(国指定重要文化財／昭和36年6月指定)

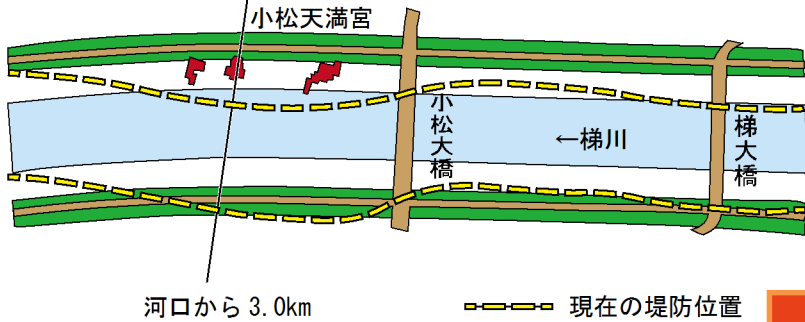
分水路改修の必要性

- 小松天満宮付近の河川は、従来の川幅が約80mしかなく、洪水の流下能力が不足して危険な状態にあり、川幅を100m程度にひろげて洪水を流れやすくする必要があります。
- 一方、小松天満宮は、小松市の成り立ちに関わる歴史的・文化的なシンボルであり、国指定の重要文化財であることから、現位置の保存が求められました。
- 地域を洪水から守るために早期の河川改修が必要であり、模型実験等の技術的な検討を踏まえて、川の流れを分派させて、小松天満宮境内を中の島とする分水路方式による整備を実施することになったものです。

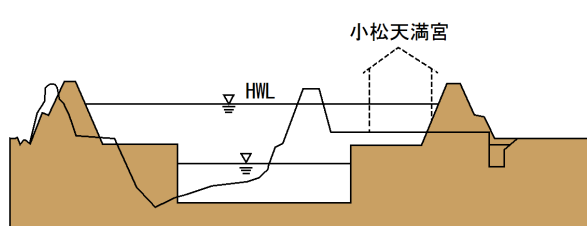
直線河道による整備(従来の河川整備方式)

3.0km付近の湾曲している堤防を直線化するとともに、流下能力の向上を図るために引堤する整備方式

＜平面イメージ図＞



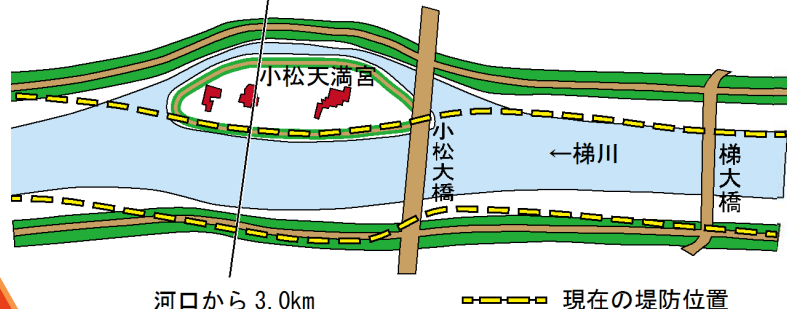
＜断面イメージ図＞



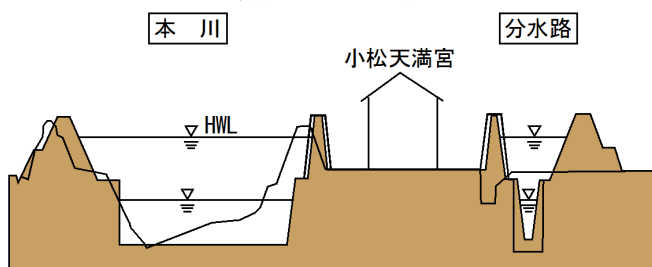
分水路方式による整備

小松天満宮境内を中の島として現位置に残し、川の流れを分派させて、本川の流下能力を不足分を分水路によって補う整備方式

＜平面イメージ図＞



＜断面イメージ図＞



技術検証により練り上げられた分水路計画



分水路決定に際しては大規模な模型実験による技術的な検討による安全性の検証が行われました。



河川工学の専門家による技術検討委員会により、分水路方式による河川改修計画について技術的な審議がなされました。

梯川分水路 河川整備事業の効果

治水対策と一体的な歴史的町並みの復元

- 事業を進める上では、景観検討に関する市民アンケートを実施して地域の意見を反映するとともに、学識者からなる「小松天満宮整備計画評価委員会」の助言を踏まえて、文化的価値の重要性を勘案して保存と利用に配慮しています。
- 小松地区では、小松市、国土交通省、石川県の各事業が一体的に進められてきました。市は旧北国街道筋における歴史的町並みの復元、国は梯川分水路の整備、県は小松大橋の架替を実施し、まちづくり、川づくり、道づくりを行っています。



歴史的町並み整備状況
(小松市大川町)



整備されたまちづくりの状況
(H27.5.27撮影)



大川原やわらぎ街道まちづくり完成式典 (H27.3.8)

分水路完成イメージ横断面図



歴史的景観や環境へ配慮し、擬石、植栽が可能な護岸形式を採用



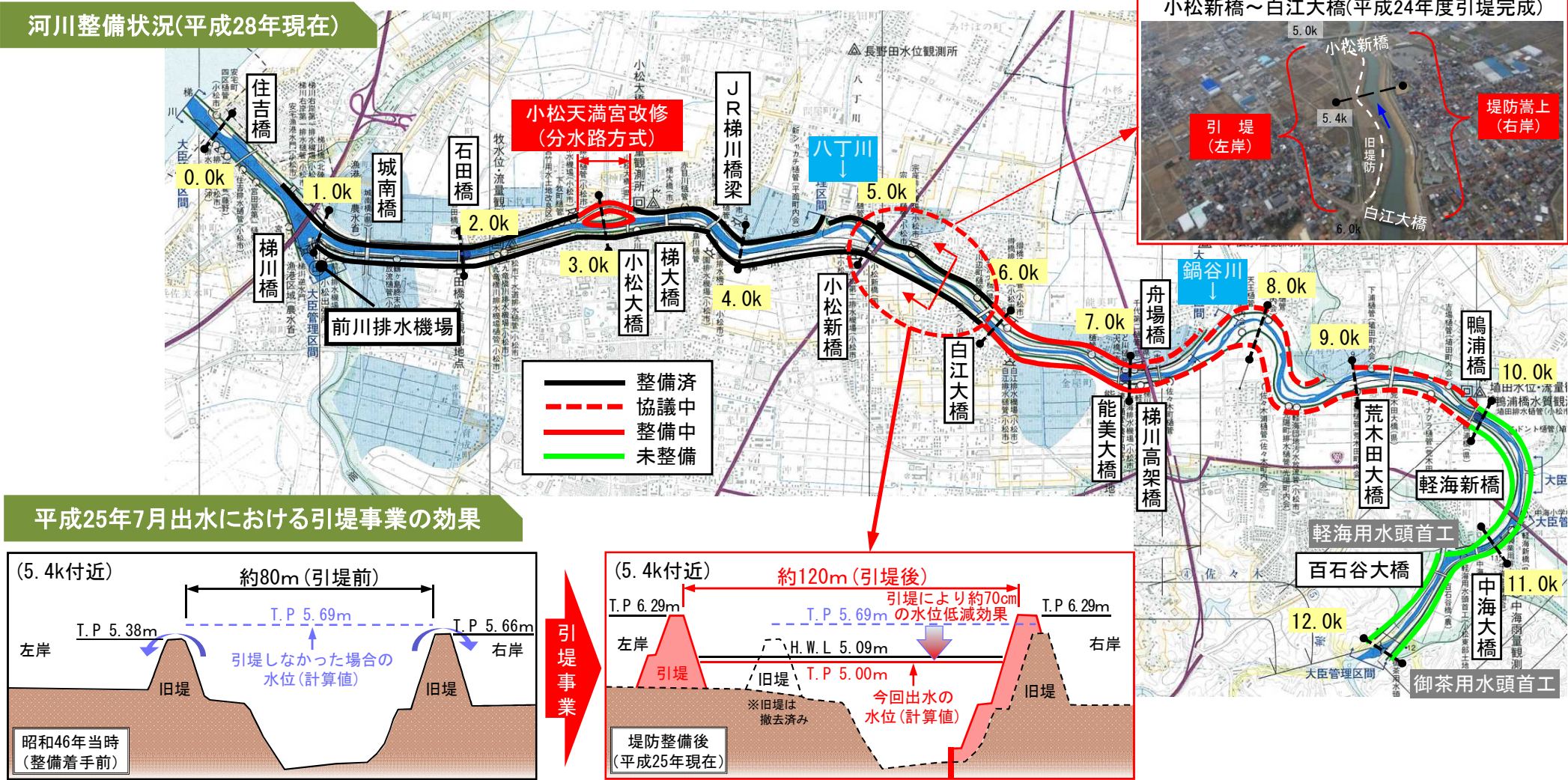
自然石風の護岸



朱色・擬宝珠付き高欄の橋梁

河川整備事業による効果

- 梯川では、現在までに、前川合流点（1k）から白江大橋下流（6k）までの堤防の整備を進めてきました。
- 平成25年7月出水では、埴田観測所において観測史上の最高水位を記録したものの、これまでの引堤事業により水位低減が図られ、川から水があふれ出すことを未然に防ぎました。小松新橋から白江大橋においては、川幅を80mから120mと1.5倍に広げたため、約70cmの水位低減効果を発揮しています。



梯川分水路 梯川分水路改修の経緯

分水路改修の移り変わり

- 梯川分水路は、平成8年の計画決定から20年、平成12年の用地買収着手から17年を経て、平成28年11月に通水を迎えます。
- 分水路改修では、本川右岸堤や輪中堤、分水路等の工事を進めるとともに、支川付替や市道付替、小松大橋架替等の関連工事を行っています。

